

ナースが見る人体 I

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前期	

事前学習内容

- ・ ナースが見る人体（第1章、第3章、第7章、第8章）を読み、各器官のつながりをイメージする
- ・ 講義・演習に関連する人体の構造と機能を学習しノートに整理する

科目全体のねらい・授業目標

感覚器官は、外界のさまざまな刺激や情報をキャッチし脳に送りこみ、刺激を受け取た神経細胞は新たな回路網を作る。この回路網は、日常生活のなかで急速に形成され、ヒトの感じる心や考える力にとなる。このような機能は、人間が社会の影響を受けながら個別性を育み、しだいに“その人らしい生活行動”を獲得するという特徴を持っていることを理解する。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力をひき出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	その人らしさを作り、映し出す頭部 頭部を守る構造としくみ	講義
2, 3	脳の構造と機能 中枢神経の区分と機能(大脳・間脳・脳幹・小脳)	講義
4	頭部と全身のつながり ニューロンによる興奮の伝導と伝達	講義
5	頭部と全身のつながり 自律神経の支配、脊髄の構造と分布領域	講義・筆記試験
6	刺激を受け止める皮膚の構造とその変化	講義・演習
7	外界を反映する感覚器の構造、感覚器の働き	講義・演習
8	食物の摂取と味覚の発達	講義・演習
9	姿勢・運動を支える各組織の役割（骨・筋）	講義・演習
10	姿勢・運動を支える骨の代謝・筋の活動メカニズム（細胞レベル）を学ぶ	講義・演習
11	行動範囲を拡大する下肢 上体の重みを支える構造、二足歩行と下肢の運動範囲 下肢の血液循環と神経支配	講義・演習
12	上肢の運動とその発達 上肢の関節とその運動、生活を創りだす上肢、 上肢の血液循環と神経支配	演習・発表
13	生活行動とからだのしくみ 食行動につながる、感覚器-脳-上下肢運動の営み	演習・発表
14	生活行動とからだのしくみ 入浴時の脱衣行動につながる、感覚器-脳-上下肢の営み	演習・発表
15	演習発表、筆記試験	評価

評価方法

演習発表、個人課題、筆記試験にて評価する

テキスト

解剖生理学、ナースが見る人体

ナースが見る人体Ⅱ

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前期	

事前学習内容

- ・ ナースが見る人体（第4章）を読み、各器官のつながりをイメージする
- ・ 講義・演習に関連する人体の構造と機能を学習し整理する

科目全体のねらい・授業目標

生命を維持するための直接的な機能を分担する呼吸、循環のしくみとはたらきに焦点を当て、個体レベルの生と死を見つめながら「生命の源」を学習する。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力をひき出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	生命維持に直結する胸部 外界から酸素を取り込む、喉頭のしくみと発声、胸部の構造	講義
2	呼吸と循環のつながり 酸素の摂取と不要物を排泄する仕組み、分圧の差によるガス交換	講義
3, 4	呼吸系の構造 呼吸筋、呼吸運動による横隔膜の変化、気管支、気管支と肺区域	講義
5	呼吸運動の調節 呼吸の神経調節 筆記試験	講義・筆記試験
6, 7	循環の原動力としての心臓 心臓の構造（正面、後面）、心臓を養う血管、刺激伝導系	講義
8	循環の原動力としての心臓 心臓の周期的活動とその調節機構	講義
9	全身をめぐる末梢血管 血管（動脈、静脈、毛細血管）の構造と特徴	講義
10	血圧・心拍の調節機能 筆記試験	講義・筆記試験
11, 12	生命を維持するための、循環と呼吸の連携のしくみ	講義・演習
13, 14	生活上の刺激によって、循環と呼吸が変化するしくみ	演習・発表
15	演習発表、筆記試験	評価

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

解剖生理学、ナースが見る人体

ナースが見る人体III

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前期	

事前学習内容

- ・ ナースが見る人体を読み、各器官の働きや、人体への影響について考えワークシートにまとめる。
- ・ 講義・演習に関連する人体の構造と機能を学習しノートに整理する

科目全体のねらい・授業目標

人間のからだは、皮膚によって外部からの刺激を直接受けることなく内部の環境を一定に保つことができる。様々な影響をもたら日常生活では、内部環境の恒常性を保つために、ホルモンや体液が大きな役割を果たしていることを、人間のからだ全体を大づかみにとらえながら理解する。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力をひき出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	全身を満たす体液の循環 体液の構成成分、血液の組成（細胞成分の働き） 血球の分化と成熟、血液型	講義
2	止血・凝固のしくみ 血液凝固の機序、凝固因子と凝固阻害物質	講義
3	全身をめぐるリンパ管 リンパ管の構造と走行、胸腺・脾臓・リンパ節	講義
4	免疫防御機能 食細胞とサイトカイン、液性免疫・細胞性免疫、筆記試験	講義・筆記試験
5	内分泌による調整 ホルモンの化学的性質と作用機序、調節ホルモン・拮抗ホルモン	講義
6	視床下部、下垂体の構造とそのホルモンの作用、フィードバック機能	講義
7	甲状腺・上皮小体の構造とそのホルモンの作用、カルシウム代謝の調節	講義
8	胰島・副腎の構造とそのホルモンの作用、糖代謝の調節	講義
9	消化管ホルモン、腎臓のホルモンの作用、筆記試験	講義・筆記試験
10-12	外部環境に適応するための体温維持に関わる組織と連携のしくみ	演習・発表
13-15	ストレスに備えるからだのしくみ	演習・発表

評価方法

演習発表、個人課題筆記試験にて評価する

テキスト

解剖生理学、ナースが見る人体

ナースが見る人体IV

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前期	

事前学習内容

- ・ ナースが見る人体（第5章）を読み、各器官のつながりをイメージする
- ・ 講義・演習に関連する人体の構造と機能を学習しノートに整理する

科目全体のねらい・授業目標

人間は、生命に不可欠な栄養素を意識して摂取しており、体内に入った食物は、自然の営みとして消化・吸収され、人間に必要な物質につくりかえられて活用され、不要な物質は排泄される。摂取から排泄までの対象の生活習慣を含め、食-排泄の健康維持に対する看護の視点に活用できる。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力をひき出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	外界から栄養を取り込むしくみ 体内における消化管の位置、消化管の壁面の特徴 <u>消化管の発生と腹膜の役割</u>	講義
2, 3	食の旅（吸収までの過程） 消化を助ける口腔のしくみ、食べ物を送るためのしくみ（3狭窄部） 食べ物の消化のしくみ（血管・神経支配・胃液分泌）	講義
4, 5	栄養を吸収する過程 腸管の構造と機能（散大栄養素の吸収過程） 吸収過程をつなぐ腹部の動・静脈とリンパ管	講義・演習
6	不要物を作り出す 結腸から肛門の機能	講義・演習
7	吸収力を高めるしくみ 脾臓の構造と機能を、食の消化・吸収過程で理解する	演習・発表
8	吸収力を高め、栄養代謝を助けるしくみ 肝臓・胆のうの構造と機能の特徴、肝臓に入る血管	演習・発表
9-11	栄養の吸収を妨げる要因と健康維持 機能障害が及ぼす健康への影響を考える	演習・発表
12-14	不要物の排泄を妨げる要因と健康維持 機能障害が及ぼす健康への影響を考える	演習
15	演習発表	演習・筆記試験

評価方法

演習発表、個人課題、筆記試験にて評価する

テキスト

ナースが見る人体、ナースが見る病気、解剖生理学

ナースが見る人体V

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 後期	

事前学習内容

- ・ ナースが見る人体（第6章、第9章）を読み、各器官のつながりをイメージする
- ・ 講義・演習に関連する人体の構造と機能を学習しノートに整理する

科目全体のねらい・授業目標

吸収された栄養は全身をめぐり、各細胞で代謝されたのち代謝産物として排泄される。この営みを支える沈黙の臓器や自律神経との関連を深く学ぶことで、人間の自然治癒力に影響していることを理解する。また、生命の誕生（よく生まれ）を学習し、ヒトが種の保存を家族のなかで営む特殊性をもつことの意味を理解する。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力をひき出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	吸収物質への対応 内部環境を調節する臓器、肝臓と周辺臓器の営み	講義
2	循環物質の選別と排除 水及び電解質を調節するしくみ、腎臓の組織構造	講義
3	不要物を出すしくみ 腎臓から膀胱へ、膀胱神経および血管支配、膀胱および尿道の構造	講義
4	内部環境のバロメーター 自律神経の臓器支配、脊髄をめぐる体液（動脈と神経）、髄液の役割	講義
5, 6	沈黙の臓器を守る 肝臓機能の異常事態がからだに与える影響を考える	演習・発表
7, 8	健康を維持するための排泄機能 排尿を我慢することがからだに与える影響を考える	演習・発表
9, 10	排せつ行為のメカニズム 尿意の自覚からトイレ行動を全身機能のつながりを考える	演習・発表
11	性差とその成熟：胎児から思春期までの性分化とホルモン分泌	講義
12	大人のからだ 生殖器の構造：男性・女性	講義
13	授乳のしくみ 乳房の構造と機能	講義
14	生命の誕生：受精から着床まで 人生における「よく生まれ、よく育まれ、よく働かせる存在」を考える	演習・発表
15	演習発表	評価

評価方法

演習発表、個人課題、筆記試験にて評価する

テキスト

ナースが見る人体、解剖生理学

栄養と健康

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	1年次 前期	

事前学習内容

- 厚生労働省「健康日本21（栄養・食生活）」の考え方を理解し・具体的な取り組み内容を理解する

科目全体のねらい・授業目標

人の成長や健康維持・回復過程に欠かせない栄養の重要性を理解し、看護者の立場で栄養と健康について考える。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力をひき出す看護援助ができる。
- 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携できる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	栄養と健康：栄養所要量とエネルギー所要量について理解する	講義
2	ライフステージと栄養の関連を理解する 乳幼児～青年期の栄養と問題、中高年期の栄養問題 妊娠婦の栄養	講義
3	健康にとって食事バランスの重要性を理解する	講義
4	疾患別治療食の理解：糖尿病、虚血性心疾患、腎疾患など	講義
5	疾患別治療食の理解：肝疾患、貧血、胃切除後の患者	講義
6	非経口的による栄養管理について知る 経管栄養法の種類と適応、経静脈栄養法の種類と適応	講義
7	栄養管理におけるチームアプローチに関心を持ち深める 栄養状態のアセスメントと食生活の改善の工夫	講義・演習
8	筆記試験	

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

臨床栄養学 80kcalガイドブック

生化学

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前期	

事前学習内容

- 細胞の構造としくみを理解して臨む

科目全体のねらい・授業目標

生体の基本単位である細胞の基礎的構造と生理機能を細胞生物学の視点から学習する。また、生命現象を理解する上で必要な知識として生体内の反応、生体を構成している生体物質の構造と機能、それらの代謝について理解する。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力をひき出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	看護師に期待される知識（生化学・環境生理学・住環境・食生活）	講義
2	生命の起源と進化：生命の単位、ゲノム	講義
3	からだの構造の形成—器官形成、幹細胞・細胞分裂	講義
4	細胞膜における物質輸送、情報伝達	講義
5	ホルモンとは、種類と作用機序、ホルモン各論、内分泌疾患	講義・演習
6	代謝とは 異化と同化 ATP	講義・演習
7	酵素とは 酵素反応 反応の阻害	講義・演習
8	ビタミンと補酵素の関係、ビタミンの種類と生理作用	講義・演習
9, 10	グルコースの代謝とATP産生（解糖系、クエン酸回路、電子伝達系） 糖新生、ペントースリン酸回路、グリコーゲンの代謝	講義・演習
11	脂質の消化・吸収、脂肪酸の分解、ケトン体の生成と利用 生合成（脂肪酸、トリグリセリド、コレステロール、エイコサノイド）	講義・演習
12, 13	タンパク質の消化と吸収、タンパク質とアミノ酸（糖原性、ケト原性） 尿素の生成、アミノ酸からの合成（含窒素化合物、他のアミノ酸）	講義・演習
14	ヌクレオチドヘモグロビンの分解 代謝回転 ビリルビン代謝（腸肝循環）チドの合成と分解 新生経路と再生経路 尿酸	講義・演習
15	筆記試験	

評価方法

筆記試験、レポートにて評価する

テキスト

生化学(医学書院) , 解剖生理学

疾病論

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前期	

事前学習内容

- 各講義では、正常な臓器の構造・機能の知識を復習して臨む

科目全体のねらい・授業目標

人体の常態を逸脱していくプロセス、その結果としてのさまざまな疾病がもたらす身体内部の変化について理解する。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力をひき出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	病理学の概要 治療における病理学の役割、疾病を引き起こす内的・外的誘因、疾病的分類	講義
2	細胞・組織の障害と修復	講義
3, 4	加齢による全身および臓器の変化、先天異常の分類とその原因 萎縮、壊死、循環障害の病態	講義・演習
5, 6	糖質、タンパク質およびアミノ酸、脂質の代謝異常	講義・演習
7	炎症の定義とその徴候	講義
8, 9	免疫機構の異常による発生するアレルギー、自己免疫疾患	講義・演習
10, 11	腫瘍発生の原因、発がんの機序、転移の病態と転移の経路	講義・演習
12	移植と再生医療	講義
13	虚血、うつ血、充血の病態、出血の病態とその原因	講義
14	閉塞性の循環障害によって生じる血栓、塞栓、梗塞の病態 浮腫、脱水の病態について説明できる。	講義
15	筆記試験	

評価方法

筆記試験で評価する

テキスト

病理学(医学書院)

病態治療論 I

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前・後期	

事前学習内容

- 各機能障害に関連する人体の構造・機能について復習した上で、受講する。

科目全体のねらい・授業目標

- 全身を支配・統合する脳の働きの障害とそれに伴う検査・治療について理解する。また、それらが障害されると日常生活にどのような影響をもたらすのか理解する。
- 行動範囲の拡大や生活をつくりだす働きの障害とそれに伴う検査・治療について理解する。また、それらが障害されると日常生活にどのような影響をもたらすのか理解する
- 外界からの刺激を受けとめる感覚機能の障害とそれに伴う検査・治療について理解する。また、それらが障害されると日常生活にどのような影響をもたらすのか理解する。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	全身を支配・統合する脳の働きの障害・検査・治療 (クモ膜下出血、脳内出血など)	講義
2	全身を支配・統合する脳の働きの障害・検査・治療 (TIA、脳梗塞など)	講義
3	全身を支配・統合する脳の働きの障害・検査・治療 (脳腫瘍など)	講義
4	全身を支配・統合する脳の働きの障害・検査・治療 (硬膜外血腫、硬膜下血腫など)	講義
5	全身を支配・統合する脳の働きの障害・検査・治療 (脳膿瘍、脳炎、髄膜炎など)	講義・筆記試験
6	行動範囲の拡大や生活をつくりだす働きの障害・検査・治療 (骨折、脱臼、アキレス腱断裂、靭帯損傷など)	講義
7	行動範囲の拡大や生活をつくりだす働きの障害・検査・治療 (脊髄損傷、末梢神経損傷など)	講義
8	行動範囲の拡大や生活をつくりだす働きの障害・検査・治療 (骨髄炎、変形性関節症、関節リウマチなど)	講義
9	行動範囲の拡大や生活をつくりだす働きの障害・検査・治療 (骨腫瘍、腰椎椎間板ヘルニア、頸椎症性脊髄症など)	講義・筆記試験
10	外界からの刺激を受けとめる耳・鼻の障害・検査・治療 (内・外・中耳炎、メニエール病など)	講義
11	外界からの刺激を受けとめる耳・鼻の障害・検査・治療 (突発性難聴、副鼻腔炎、流行性耳下腺炎など)	講義・筆記試験
12	外界からの刺激を受けとめる眼の障害・検査・治療 (麦粒腫、結膜炎、角膜炎、シェーグレン症候群、ベーチェット病など)	講義
13	外界からの刺激を受けとめる眼の障害・検査・治療 (網膜剥離、白内障、緑内障など)	講義・筆記試験
14	外界からの刺激を受けとめる皮膚の障害・検査・治療 (熱傷、疥癬、褥瘡、強皮症、皮膚筋炎、ベーチェット病など)	講義
15	外界からの刺激を受けとめる皮膚の障害・検査・治療 (単純ヘルペス、帯状疱疹、悪性黒色腫など)	講義・筆記試験

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

成人看護学（脳・神経）, (運動器), (眼), (皮膚), (耳鼻咽喉)

病態治療論Ⅱ

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前・後期	

事前学習内容

- 各機能障害に関連する人体の構造・機能について復習した上で、受講する。

科目全体のねらい・授業目標

- 生命維持に直結するガス交換の障害、全身に血液を送り出す働きの障害、内分泌・代謝により内部環境を調整している働きの障害とそれに伴う検査・治療について理解する。また、それらが障害されると日常生活にどのような影響をもたらすのか理解する。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	呼吸器障害に起こる自覚症状（咳嗽・痰）～から関連疾患を理解する	講義
2	呼吸器障害に起こる自覚症状（胸痛・呼吸困難・低酸素症状）から関連疾患を理解する	講義
3	呼吸器障害に起こる自覚症状（発熱・呼吸異常・副雑音・意識障害）から関連疾患を理解する	講義
4	呼吸器疾患の検査（血液、胸水、喀痰、画像）の意味を理解する	講義
5	呼吸器疾患の検査（気管支鏡、呼吸・肺機能検査）と治療（NPPV, HOT）を理解する	講義・筆記試験
6	全身に血液を送る働きの障害・検査・治療（虚血性心疾患など）	講義
7	全身に血液を送る働きの障害・検査・治療（不整脈など）	講義
8	全身に血液を送る働きの障害・検査・治療（心臓弁膜症、心膜炎、心タンポナーデ、心筋症など）	講義
9	全身に血液を送る働きの障害・検査・治療（心不全、高血圧症、低血圧症など）	講義
10	全身に血液を送る働きの障害・検査・治療（動脈疾患、静脈疾患など）	講義・筆記試験
11	内分泌・代謝により内部環境を調整している働きの障害・検査・治療（甲状腺機能低下症、アジソン病、尿崩症など）	講義
12	内分泌・代謝により内部環境を調整している働きの障害・検査・治療（甲状腺機能亢進症、橋本病など）	講義
13	内分泌・代謝により内部環境を調整している働きの障害・検査・治療（甲状腺腫瘍、クッシング病、神経芽細胞腫、褐色細胞腫など）	講義
14	内分泌・代謝により内部環境を調整している働きの障害・検査・治療（糖尿病、脂質異常症など）	講義
15	内分泌・代謝により内部環境を調整している働きの障害・検査・治療（尿酸代謝障害、メタボリック・シンドロームなど）	講義・筆記試験

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

成人看護学（呼吸器）, (循環器), (内分泌・代謝)

病態治療論III

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	1年次 後期	

事前学習内容

- 各機能障害に関連する人体の構造・機能について復習した上で、受講する。

科目全体のねらい・授業目標

- 生命活動に欠かせない血液の働きの障害と感染症、およびそれに伴う検査・治療について理解する。また、それらが障害されると日常生活にどのような影響をもたらすのか理解する。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	生命活動に欠かせない血液の働きの障害・検査・治療 (鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血など)	講義
2	生命活動に欠かせない血液の働きの障害・検査・治療 (特発性血小板減少性紫斑病、血栓性血小板減少性紫斑病、血友病など)	講義
3	生命活動に欠かせない血液の働きの障害・検査・治療 (白血病、骨髄異形成症候群など)	講義
4	生命活動に欠かせない血液の働きの障害・検査・治療 (多発性骨髄腫、伝染性単核球症など)	講義
5	生命活動に欠かせない血液の働きの障害・検査・治療 生命の危機 (ショック、播種性血管内凝固症候群 (DIC) 、死の徵候など)	講義・筆記試験
6	感染症の検査・治療 (HIV感染症、日和見感染症、敗血症など)	講義
7	感染症の検査・治療 (真菌感染症、寄生虫感染症、多剤耐性菌感染症など)	講義
8	筆記試験	

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

成人看護学（血液・造血器）, (アレルギー・膠原病・感染症)

病態治療論IV

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 後期	

事前学習内容

- 各機能障害に関連する人体の構造・機能について復習した上で、受講する。

科目全体のねらい・授業目標

- 食物を消化・吸収する働きの障害と咀嚼・嚥下の働きの障害、それに伴う検査・治療について理解する。また、それらが障害されると日常生活にどのような影響をもたらすのか理解する。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	食物を消化・吸収障害の発見や健康状態に関わる検査 (便、肝機能、膵液、超音波、内視鏡、政権、放射線、シンチグラフィ)	講義
2	食物を消化・吸収障害の特徴と内科的治療 (がんの特性、食道がん)	講義
3	食物を消化・吸収障害の特徴と内科的治療 (胃・大腸の代表疾患)	講義
4	食物を消化・吸収障害の特徴と内科的治療 (大腸・肝臓の代表疾患)	講義
5	食物を消化・吸収障害の特徴と内科的治療 (肝臓の代表疾患)	講義
6	食物を消化・吸収障害の特徴と内科的治療 (胆道・膵臓の代表疾患)	講義
7	食物を消化・吸収障害の特徴・検査・内科的治療の総括、筆記試験	講義・筆記試験
8 - 10	消化・吸収・排泄障害の特徴と外科的治療 (食道、胃、心血管)	講義
11	呼吸循環障害の特徴と外科的治療 (肺・心臓血管)	講義
12	その他手術を必要とする疾患の特徴と外科的治療 (乳腺、甲状腺)	講義
13	外科的知慮を必要とする疾患理解の総括、筆記試験	講義・筆記試験
14	咀嚼・嚥下の働きの障害・検査・治療 (舌がん) を理解する	講義
15	咀嚼・嚥下の働きの障害・検査・治療 (齶歯、口腔内炎症) を理解する	講義

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

成人看護学（消化器）、（口腔）、臨床外科看護総論、臨床外科看護各論

病態治療論V

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 後期	

事前学習内容

- 各機能障害に関連する人体の構造・機能について復習した上で、受講する。

科目全体のねらい・授業目標

- 体液調節、尿の生成や排泄により内部環境を調整している働きの障害とそれに伴う検査・治療について理解する。また、それらが障害されると日常生活にどのような影響をもたらすのか理解する。
- 病態の把握や治療効果を判断するための方法や画像の見方を理解する。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	腎臓により内部環境を調整している働きの障害・検査・治療 (水・電解質、酸塩基平衡、恒常性の異常)	講義
2	腎臓の機能障害をきたす疾患の特徴と検査・治療 (腎機能評価・慢性腎臓病)	講義
3	腎臓の機能障害をきたす疾患の特徴と検査・治療 (CDK・腎代替療法)	講義
4	腎臓の機能障害をきたす疾患の特徴と検査・治療 (ネフローゼ症候群・慢性腎炎)	講義
5	尿路の障害をきたす疾患の特徴と検査・治療 (感染症・排尿障害)	講義
6	尿路の障害をきたす疾患の特徴と検査・治療 (尿路結石・悪性腫瘍)	講義
7	性差にともなう障害 (男性生殖機能) ・検査・治療 (勃起障害、不妊症など)	講義
8	性差にともなう障害 (女性生殖機能) ・検査・治療 (子宮筋腫、子宮内膜症など)	講義
9	性差にともなう障害 (女性生殖機能) ・検査・治療 (子宮がん、卵巣がんなど)	講義
10	性差にともなう障害 (女性生殖機能) ・検査・治療 (性行為感染症など)	講義
11	一般検査 (尿検査、便検査、穿刺液検査、脳脊髄液検査など) 、 血液検査 (血球検査、出血・凝固検査など)	講義
12	化学検査 (血清成分検査、代謝機能検査、ガス分析など) 、 免疫・血清検査 (炎症マーカー、自己抗体検査、腫瘍マーカーなど)	講義
13	各種ホルモン検査など	講義
14	放射線検査 (一般撮影検査CT検査、MRI検査と画像の見方)	講義
15	放射線治療の特徴を理解する	講義

評価方法

- 筆記試験にて評価する

テキスト

- 成人看護学（腎・泌尿器）、成人看護学（女性生殖器）、放射線テキスト、臨床検査テキスト

リハビリテーション論

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	1年次 後期	

事前学習内容

- 各回にテーマとなる疾患にはどのような特徴があるのかを学習しておく
- 日常生活に必要な身体機能を把握する

科目全体のねらい・授業目標

人々が地域でその人らしく暮らすため、リハビリテーションは重要である。リハビリテーションにおける主要な概念を理解し、疾患や障害別のリハビリテーションの実際を学ぶ。多職種との連携や、リハビリテーションの視点を持った看護援助を考える基礎となる知識を身につける

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる
- 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしくくらすための健康支援ができる
- 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力を引き出す看護援助ができる
- 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携できる

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	リハビリテーション概要と理学療法について	講義
2	リハビリテーションでの理学療法の役割	講義
3	運動リハビリテーションの基本	演習
4	作業療法について 基本動作とADL・ICF	講義・演習
5	中枢神経系疾患のある対象のリハビリテーション	講義・演習
6	摂食・嚥下機能障害とリハビリテーション	講義・演習
7	コミュニケーション障害とリハビリテーション	講義・演習
8	テスト	

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

リハビリテーション看護

微生物学

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前・後期	

事前学習内容

- ・ 自然免疫・獲得免疫について理解していること
- ・ 感染の成り立ちと感染予防について理解していること

科目全体のねらい・授業目標

健康状態をおびやかす微生物の特徴、感染症の原因、宿主側の反応、病原微生物に対する治療予防法を学び、感染看護を理解する。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象のもてる力をひき出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	概要 備瀬物とは何か、微生物と人間の生活（常在菌の役割） 微生物のあゆみ（バズルとコッホ、予防接種、ウイルスの発見）	講義
2, 3	球菌と桿菌の形態と特徴を理解する 球菌；グラム陽性、グラム陰性、桿菌；グラム陽性、グラム陰性	講義
4, 5	原虫の形態と特徴を理解する 赤痢アーバ、膿トリコモナス、マラリア原虫、トキソプラズマ	講義
6, 7	検査、感染に対する生体防御機構を理解する 化学療法の基礎（作用機序、薬剤耐性、副作用）	講義
8, 9	真菌の形態と特徴を理解する 主な真菌（カンジダ属、クリプトコッカス、アスペルギルス）	講義
10	主な病原細菌と細菌感染症（抗酸菌、嫌気性菌）を理解する	講義
11-13	ウイルスの形態と特徴を理解する アデノウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、水痘ウイルス、肝炎ウイルス、レトウイルス（HIV）、COVID-19	講義
14	感染症の変遷を理解する 感染症の現状と問題（院内感染） 感染症への対策（法律、ワクチン、予防接種）	講義
15	筆記試験	

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

微生物学(医学書院)

薬理学

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 前期	

事前学習内容

- ・ 指定する内容に取り組む

科目全体のねらい・授業目標

薬物の基礎知識及び薬物の管理及び安全な与薬について理解することで、今後の看護実践におけるアセスメントやリスク等の判断に役立てる。

教育目標との関連

- ・ 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象の持てる力をひき出す看護援助ができる。
- ・ 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携できる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	総論：医薬品の歴史、薬としての基本的性質 薬物動態学、薬力学、相互作用 個人差に関わる因子(危険性と有害性)、薬事法との関連	講義
2	外用薬・消毒薬 外用薬(皮膚科・眼科用薬)、消毒剤(消毒レベル、各水準消毒薬)	講義
3	漢方薬：主な漢方薬製剤、副作用、西洋薬と漢方薬の違い 電解質輸液製剤、栄養輸液製剤、血液製剤	講義
4	抗感染症薬：抗菌薬のしくみ、薬剤耐性、主な抗菌薬	講義
5, 6	がんに作用する薬物：抗がん作用のしくみ、主な抗がん剤	講義
7, 8	免疫治療薬：免疫抑制薬、免疫増強薬 アレルギーおよび炎症に対する薬物 ステロイド性、非ステロイド性 解熱鎮痛薬、消炎酵素薬	講義
9	末梢での神経活動に作用する薬物 自律神経系と薬の作用(交感神経系、副交感作動薬)	講義
10, 11	中枢神経系に作用する薬物 全身麻酔薬、抗精神病薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬 抗てんかん薬、睡眠薬、麻痺性鎮痛薬	講義
12, 13	心臓血管系・血液系に作用する薬物 心臓血管系(強心薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬、降圧利尿薬、昇圧剤) 血液系(造血剤、抗血栓薬、抗血液凝固薬、止血薬)	講義
14	呼吸器に作用する薬物 気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸促進薬 消化器系に作用する薬物 消化性潰瘍治療薬 健胃・消化薬 レバ消化管運動促進薬 制吐薬	講義
15	物質代謝に作用する薬物 糖尿病治療薬、甲状腺治療薬、下垂体ホルモン、ビタミン剤、輸液、電解質、栄養剤に関する薬物	講義・評価

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

薬理学(医学書院)

臨床判断の基礎

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	2年次 前・後期	

事前学習内容

- 事例に関する人体の構造・機能、疾病、検査、治療など必要な学習をして、授業に臨むこと

科目全体のねらい・授業目標

- 既習の専門的知識（人体の構造・機能や病理学、疾病論、薬理学など）を活用し、対象に生じている状況を正確に把握することができる。
- 学習事例を通し、対象の状態の変化に気づき、状況を捉え、を分析・判断する過程を学ぶ。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしく暮らすための健康支援ができる。
- 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象の持てる力を最大限に引き出す看護援助ができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	臨床判断の概要（臨床判断のプロセス：対象の変化への気づき、解釈・反応・省察、判断・分析と優先度の決定）	演習
2	事例①（入院中の患者に生じている変化に気づき・解釈する）	演習
3	事例①（入院中の患者に生じている変化に気づき・解釈・判断する）	演習・評価
4	事例②（救急処置を必要とする患者の事例）	演習
5	事例②（救急処置を必要とする患者の事例）	演習
6	事例②（救急処置を必要とする患者の事例）	演習・評価
7	事例③（薬物治療を受ける高齢患者の事例）	演習
8	事例③（薬物治療を受ける高齢患者の事例）	演習・評価

評価方法

- レポート・パフォーマンス評価にて総合的に評価する

テキスト

- 講師資料

チーム医療論

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	1年次 前期	

事前学習内容

- ・ 病院では、どのような職種の人々が従事し、どのような仕事をしているのか、事前に調べて臨む
- ・ 問題意識をもって参加する（問題意識を書き出しておく）

科目全体のねらい・授業目標

チーム医療を支える多職種の役割を理解し、一人ひとりの患者を中心に各専門職がどのように連携・協働し、効果的、効率的な医療が提供されているのか体験することで理解する

教育目標との関連

3. 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる
5. 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携できる
8. 厚生連の一員としてセルフマネジメントできる

授業計画

No.	学習内容と成果		授業方法
研修	チーム医療とは何か、チーム医療の条件、連携・協働についての基礎知識を理解する		講義/オリエンテーション
1～3	1. 医師の立場からチーム医療における連携とは 2. チーム医療と看護職の役割 3. 看護助手の役割とチーム医療における連携 4. 薬剤部の役割とチーム医療における連携 5. 放射線技術課の役割とチーム医療における連携 7. リハビリテーション課の役割とチーム医療における連携 8. 臨床検査課の役割とチーム医療における連携 9. 栄養管理課の役割とチーム医療における連携 10. 施設課の役割とチーム医療における連携 11. 健診センターの役割とチーム医療における連携 12. 患者相談支援センターの役割とチーム医療における連携		病院講堂 講義
4～15	病棟見学 1 病棟における看護師の役割を理解する 2 どのように多職種との連携や看護師間の連携を図っているのかを知ることができる 3 電子カルテの操作を理解し、情報収集できる 4 病棟で立案されている看護計画に沿って可能なケアを見学・参加・実施する 多部門見学 1 各部門の仕事内容・役割を理解する 2 看護部と他部門がどのように連携を図っているかを知る事ができる 3 各専門職がどのように連携・協働し、1人ひとりの患者を支えているかに繋げて考 える事ができる 4 可能な業務を見学・参加・実施する		4日間 ローテーション 演習

事後課題内容

見学内容の共有・まとめ・発表

評価方法

レポート内容・パフォーマンス評価にて総合的に評価する

公衆衛生学

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 後期	

事前学習内容

- ・ 国民衛生の動向を読み授業に臨むこと

科目全体のねらい・授業目標

人々の健康を守る公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動を理解することで、社会の動向に关心を持ち看護活動に活かす能力につなげる。

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
2. 対象と対象を支える人々が、地域でその人らしく暮らすための健康支援ができる。
3. 社会情勢に目を受けたうえで、自己の課題を追求し続けることができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	公衆衛生とは: 公衆衛生の概念、公衆衛生の歴史	講義
2	健康と環境、疫学的方法: 現代の健康影響の諸相、集団の特性、集団を扱う医学	講義
3- 4	健康の指標: 人口問題; 国勢調査、高齢化、労働力人口、世帯数、人口動態統計 健康状態と受療状況; 生命表、有病率、健康寿命、受療率	講義
5	感染症とその予防: 感染症とは、感染症の成立、流行、種類、感染症の動向と感染症法の制定 感染症予防の基本、主要な感染症; ウィルス感染症、性感染症、結核等	講義
6	食品保健と栄養: 食品の安全、食中毒、食品衛生管理、国民の栄養	講義
7	地球環境問題: 環境汚染の特徴、温暖化、日本の環境保全対策 生活環境の安全; 待機、水、温熱、住居、アレルギー、土壤	講義
8	環境衛生と公害: 環境ホルモン; ダイオキシン摂取経路、体内の蓄積 感覚公害; 騒音・振動・悪臭 公害健康被害補償制度、ゴミ・廃棄物の処理	講義
9	地域保健: 地域保健法の理念と指針、医療サービスの供給体制 保健医療従事者(マンパワー)、救急医療・災害医療、ヘルスサービスの方向	講義
10	産業保健: 健康に影響を与える労働環境 労働による健康障害の状況と労働管理のしくみ、職業病とその対策	講義
11	医療制度: 医療保障、医療保健、高齢者医療制度、公費負担医療	講義
12	生活習慣病と難病: 生活習慣病の概念と現状、健康づくり施策、生活習慣改善と健康難病法の基本理念、医療費助成制度	講義
13	母子保健: 歴史的経過、統計からみた母子保健、母子保健サービスの全体像、課題	講義
14	学校保健: 学校保健のしくみ、学齢期の健康状態、学校保健の対象と関係職員 保健教育、健康管理、学校における感染症予防、学校環境衛生、学校安全	講義
15	筆記試験	

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

公衆衛生学、国民衛生の動向

社会福祉 I

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	1年次 後期	

事前学習内容

- ・ 保険証を確認し、加入している医療保険のしくみを学習して臨む
- ・ 介護の現状を情報リサーチして臨む

科目全体のねらい・授業目標

社会保障制度の全体像を理解し、各制度の特徴を理解することで、2年次に履修する社会福祉Ⅱの具体的に活用するための演習の基礎的な知識を学習する

教育目標との関連

1. 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
3. 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる。
5. 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携できる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	社会保障制度と社会福祉：社会保障制度、社会福祉の法制度	講義
2	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 現代社会の変化、社会保障・社会福祉の動向	講義・演習
3	医療保障：健康保障と国民健康保険、高齢者医療制度	講義
4	医療保障：保険診療のしくみ、公費負担医療、国民医療費	講義・演習
5	介護保障：介護保険制度増設の背景と介護保障の歴史、介護保険制度の概要 介護保険制度の課題と展望	講義
6	所得保障：所得保障制度のしくみ、年金保険制度、社会手当、労働保険制度	講義
7	公的扶助：貧困・低所得問題と公的扶助制度、生活保護制度のしくみ、 低所得者対策、近年の動向	講義・演習
8	筆記試験	

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

社会福祉、社会福祉用語辞典(中央法規出版)

社会福祉II

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	2年次 前期	

事前学習内容

- 社会福祉Iに学習内容を復習し、基本的な知識をもって講義・演習に臨む

科目全体のねらい・授業目標

生活者の生活問題の特質とそれに対する法律に基づく福祉制度の活用と課題を理解する。

教育目標との関連

- 人間を身体的・精神的・社会的側面から生活者としてとらえ、多様な価値観を受容できる。
- 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる。
- 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携できる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	社会福祉の歴史：福祉の枠組み、前近代・近代の救済の諸相 現代社会への構造変化と生活支援、戦後の社会福祉	講義
2	高齢者福祉の概要、サービス	講義
3	障害者福祉の概要、サービス	講義
4	児童家庭福祉の概要、サービス	講義
5, 6	社会福祉実践と医療・看護 社会福祉サービス、社会福祉援助とは、個別援助技術(ケースワーカー) 集団援助技術(グループワーク)、関節援助技術と関連援助技術 社会福祉援助の検討課題	演習
7	社会福祉実践と医療・看護 連携の重要性、連携の場面とその方法	講義
8	筆記試験	

評価方法

筆記試験にて評価する

テキスト

社会福祉、社会福祉用語辞典(中央出版)

関係法規

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	30	2年次 後期	

事前学習内容

- 人々の健康や医療を守るために、社会保障制度や医療サービスに関わる法規を理解する。
- 看護職の役割・機能に関する法律について理解する。

科目全体のねらい・授業目標

- 法は社会規範の一つである。すなわち、看護法は看護師の独占業務を規定しているのであり、看護の定義ではない。
- 看護師は、その職責を正しく遂行する為に看護法令の理解が必要であることを理解する。
- 法律は日常生活そのものである。また、看護師は専門職業人であり、看護は法律によって守られ、その責務を遵守しなければ、法律によって罰せられること（3つの法的責任）を理解する。
- これら法令を単に知識として学ぶだけではなく、なぜこのような内容になっているのか、看護との関係はどうなのかについて、他の科目で学んだこと、あるいは、社会情勢にも目を向け、自身の日常生活や実習における経験、さらに書籍・テレビ・新聞・インターネットなどからの情報とも関連づけて理解する。

教育目標との関連

- 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え方・行動できる。
- 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携できる。
- 社会情勢に目を向けたうえで、自己の課題を追求し続けることができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	法の種類、衛生法の意義、沿革、分類 厚生労働省の組織図など	事前課題 講義
2	1) 看護に関する法律：保健師助産師看護師法：目的、定義、免許、業務	復習小テスト・講義
3	2) 看護に関する法律：保健師助産師看護師法：試験、学校・養成所	復習小テスト・講義
4	3) 看護に関する法律：看護師等の人材確保の促進に関する法律	復習小テスト・講義
5	<医事法>看護師以外の医療従事者の法律 1) 医療関係資格法：定義・免許・試験・業務など 2) 医療を支える法：①臓器の移植、死体解剖保存法、②死産の届出に関する規定	復習小テスト・講義
6	<保健衛生法> 1) 共通保健法：①地域保健法 ②健康増進法 2) 分野別保健法：①精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ②母子保健法 ③母体保護法 ④学校保健安全法など 3) 感染症に関する法：①感染症の予防及び患者、②新型インフルエンザ等対策特別措置法 ③予防接種法 ④検疫法 4) 食品に関する法 5) 環境衛生法	復習小テスト・講義
7	1~6の講義まとめ・評価	テスト
8	1. 医療過誤と法律：①患者取り違え、消毒薬点滴事故の事例 ②医療過誤とは、実際の事故の事例 ③医療事故、医事紛争との違い ④医療過誤の実際の件数	講義 (弁護士)
9	2. 医療過誤と看護師の責任・法的責任 ①民事上の責任、刑事上の責任、行政上の責任 ②医療事故被害者の思い ③看護師の責任、看護師としてなすべきこと ④安全な医療のために 3. 評価	講義 (弁護士)
10	医事法：医療法 ※医師法：医師法の任務、免許、試験、臨床研修、業務 医療法の目的、医療提供の理念、定義、内容	講義

11	薬務法：薬事法・薬剤師法 安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律など 独立行政法人医薬品医療機器総合機構法など	講義
12	環境衛生法：営業、環境整備 社会保険法：費用保障・年金と手当 福祉法：1. 福祉の基盤：社会福祉法、生活保護法など 2. 児童分野：児童福祉法、個別の児童法 3. 高齢分野：老人福祉法 4. 障害分野：障害者基本法など 5. 手当：児童手当法、児童扶養手当法など	講義
13	労働法：1. 労働基準法 2. 労働安全衛生法 3. 労働者災害補償保険法 4. 雇用保険法など	講義
14	社会基盤整備等：1. 男女共同参画社会基本法 2. 次世代育成支援対策推進法 3. 少子化社会対策基本法 4. 高齢社会対策基本法など 環境法：1. 環境保全の基本法 2. 公害防止の法 3. 自然保護法	講義
15	10～14の講義まとめ・評価	テスト

評価方法

課題、筆記試験にて評価する

テキスト

看護関係法令（医学書院）、よくわかる関係法規（学研）
私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法（日本看護協会出版社）

看護倫理

単位数	時間数	配当時期	講 師 名
1	15	3年次 前期・後期	

事前学習内容

- 実習において倫理的問題に直面した看護場面（1事例）を振り返り考察を含めレポートにまとめる

科目全体のねらい・授業目標

社会規範である法律にかなう倫理性を持って、看護ケアを行う事が専門職業人としての看護師の責務である。臨床現場では、看護場面で自分の価値と他者の価値を吟味し、倫理的観点からその価値の意味を考察する能力が求められる。看護倫理に関する基本的知識と倫理的意意思決定を行うための能力を習得する。

教育目標との関連

- 看護師としての責任を自覚し、対象の立場から倫理に基づき考え・行動できる。
- 科学的根拠に基づき、状況に応じて対象の持てる力を引き出す看護援助ができる。
- 地域の保健・医療・福祉システムにおける看護師の役割を理解し、多職種と連携できる。
- 社会情勢に目を向けたうえで、自己の課題を追求し続けることができる。

授業計画

No.	学習内容と成果	授業方法
1	看護の提供者 : 1. 職業としての看護 : 法の沿革、保健師助産師看護師法 2. 看護職の資格・養成制度・就業状況 3. 看護職者の継続教育とキャリア開発 4. 看護職の養成制度の課題	講義
2	看護における倫理① : 1. 現代社会と倫理 2. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 1) 患者の権利とインフォームドコンセント 2) 患者の意思決定支援と守秘義務 3) 現代医療におけるさまざまな倫理的問題 4) 医療専門職の倫理規定	講義
3	看護における倫理② : 3. 看護実践における倫理問題への取り組み 1) 看護の本質としての看護倫理 2) 医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 3) 看護実践場面での倫理的ジレンマ	講義 演習
4	看護における倫理③ : 倫理事例の検討 ・「看護者の倫理綱領」どの条文にあたるのか。 ・どのような倫理的ジレンマが生じているか。 ・何をなすべきか対応のキーワードを明確にしモデル行動を考える。	講義 演習
5	看護における倫理④ : 倫理事例の検討 (GW) *前回のGWをB紙にまとめ発表、全体共有する	演習
6	看護における倫理④ : 事前課題から倫理事例の検討 (GW)	事前課題 演習
7	看護における倫理④ : 事前課題から倫理事例の検討 (GW) *各自発表、全体共有する	事前課題 演習
8	まとめ講義・評価	テスト

評価方法

課題、GW参加状況、筆記試験にて評価する

テキスト

看護倫理（医学書院）

参考テキスト

看護学概論（医学書院）